

稽古

古くからの手本徹底

もったいない

語
辞典

故郷の茨城県潮来町（現潮来市）で三味線の稽古を始めたのは11歳の頃、修業のために13歳で東京へ引越してからも同門の人たちは皆、三味線を「稽古する」と言っていました。

た。ところが、独り立ちして仕事を始めると、周りで三味線を「練習する」と言う人がいたのです。



本條秀太郎

そ、一挙手一投足にも日本の伝統のかたちが現れるのだと思います。日本が、

マンガ、アニメ、音楽、芸術から「食」までを「クール・ジャパン」として海外に売り出そうとしている今、「稽古」の大切さを改めて見直すべきだと思います。

（三味線演奏家・作曲家）

「それは、違うんじゃないか」と思いました。日本では、武道の弓道、柔道、なぎなたなどでも、また伝統芸能でも、「稽古」と言います。「稽古する」と「練習する」というのでは、精

神的な意味で、向き合い方が違うのだと思います。

「稽古」というと、見本を見て自分なりにそれを理解していくというのでしょうか。一方、練習では、教える人がいて、習う人に「こうですよ」と説明してあげる。

稽古はもともと中国の古典で使われていた言葉ですが、日本では8世紀初めに、太安万侶によって編纂された古事記の序文に「稽古照今」として出てきます。

「古を稽て、今に照らす」というのは、古いことを調べ、今に活かしていくということでしょうか。

以前のロンドン公演で、演奏を終えて舞台裏へ戻った際、観客席にいた友人によると、私の所作を見ていた英国人たちが「イツ・クール」（かっこいい）と声を上げたそうです。

古くからの手本を徹底的に稽古してこ